



重要！ **お知らせ**

◆面接授業や学習センター等の重要な情報については、システムWAKABA及び福島学習センターウェブサイトに掲載いたしますので、必ず週に1度はチェックするようにしてください。

【システムWAKABA】
<https://www.wakaba.ouj.ac.jp/portal/>

【福島学習センターウェブサイト】
<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

◆学習センター閉所日について
 福島学習センター及びいわきサテライトスペースの閉所日
毎週月曜日及び祝日・12月29日(月)～1月5日(月)・1月13日(火)・2月10日(火)・2月24日(火)
 (2023年度から、いわきサテライトスペースの閉所日は祝日等以外、月・火曜日となっています)
 あわせて『利用の手引き』(福島学習センターウェブサイトのトップページからダウンロードできます)の日程表もご確認ください。

◆図書・視聴学習室からのお知らせ
 単位認定試験の実施に伴い、1月6日(火)～1月25日(日)まで図書の館外貸出しを停止します。

◆次学期に向けての手続について
 ・次学期も学籍が続く方は、2月13日(金)～2月27日(金)【必着】の期間内に科目登録申請票(システムWAKABA申請可) 2月13日(金)～2月28日(土)を郵送してください。
 ・今学期学籍が切れる方で次学期も学習を継続される方、再試験を受ける方は、2月27日(金)【第1回】、3月16日(月)【第2回】【必着】まで継続入学出願票(システムWAKABA継続入学申請から出願可)または一般の学生募集要項の出願票を郵送してください。

◆機関誌『もみじ』及び『利用の手引き』の配布方法について
 配布方法については、福島学習センターウェブサイト内の「機関誌紹介」及び「各種お手続き」(下記URL)に配布方法が掲載されています。配布希望者の方はウェブサイトを参照の上、お手続きをしてください。
<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/about/magazine.html>
<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/procedure/>



ちょっと立ち止まって考える

放送大学福島学習センター客員教授 山田 紀浩

教室の時計というものは黒板の上に設置されており、教員はそれを背にして授業をしています。私は腕時計を教卓の上において授業をしますが、教卓を離れ、「今何時」と学生に聞いた時に、一斉に携帯を取り出して時間を見る姿に驚いてから久しくなりました。今では街中でも腕時計をする若者がめっきり減ったように見受けられます。ただマニアックな人間の腕時計へのこだわりには、品位を感じことがあります。私は時計マニアではありませんが、外出時に腕時計をしないと何か忘れ物をした感じがあります。私の最初の腕時計は、高校入学のお祝いに親戚からのプレゼントで約20年間使用した手動式のものでした。現在では時計も進化し、電波式腕時計と昔ながらの手動で時間を合わせる腕時計がありますが、その両方を所持しています。ただ日ごろ愛用しているのは手動式の腕時計で、これもほぼ正確に時を刻んでくれています。電波式腕時計は出張など、自分にとっての非日常の時に使うようにしています。

ところで科学の発達と共に出現した電波時計は全世界に寸分たがわない時間をもたらし、便利な社会システム形成の一翼を担っています。ただこの便利な社会システムの中でスムーズに物事が進まない不便さがあった時に、人間は立ち止まって考えざるを得ません。手動式腕時計は完全に正確ではありません。前月が31日までない翌月は日にちもズレてしまいます。さらに、この修正作業の時には腕時計が数秒ズれてしまいます。このズレを直さずにいると電車に乗り遅れてしまうこともあります。例えば、電車は4時55分発の場合、4時54分53秒ぐらいでドアが閉まり始め、4時55分0秒に出発てしまいます。自分の腕時計が何秒違っているのか認識していないといけません。いわき駅では乗り遅れると時間帯によっては1時間以上待たされてしまいますが、これは自分の時計を理解していないからです。現代の時間に追われる生活の中で、手動式の腕時計でちょっと立ち止まって時間を考える事で、便利であるが故に思考停止に陥ってしまう事に対する僅かな防止策(抵抗)になっているのではと思うことがあります。

2025年度の流行語大賞の中に「チャッピー」という用語がノミネートされています。チャットGPTを親しみを込めて呼ぶ愛称です。チャッピーは時として相談相手、友人、レポート作成での道具など、社会の隅々で活用されており、今後も人間社会に浸透していくことと思います。これを上手に使いこなすことが益々大切になっていくことでしょう。ただ時間に追われる如く、チャッピーにも追われ、支配される生活にしないためにも、ちょっと立ち止まって考えることは必要です。嘗て古代ギリシャでは、電子顕微鏡もない時代に人間の頭だけでアルケハ原と探り当てました。人間の考える力は科学より2000年も進んでいました。便利すぎる世の中だからこそ、考えることを疎かにしたくないものです。

令和7年度第2学期 卒業証書・学位記授与式

令和7年9月27日(土)福島学習センター、9月28日(日)いわきサテライトスペースにて卒業証書・学位記授与式が行われ、卒業を迎えた20名のうち7名の出席がありました。

学歌斉唱後、中田所長から一人ひとりに卒業証書・学位記が手渡され、お祝いの式辞がありました。

続いて卒業生を代表して、福島学習センターでは鴨原光郎さん、いわきサテライトスペースでは箱崎正廣さんが「御礼のことば」を述べました。

なお、鴨原光郎さんは、教養学部の全コース(または専攻)を修了した名誉学生としても表彰されました。

ご卒業おめでとうございます



※延べ卒業生数 大学院64名 教養学部1,116名
(いわきサテライトスペース卒業生数含む)

* 令和7年度第2学期 入学者の集い *

卒業証書・学位記授与式に引き続き、令和7年度第2学期入学者の集いとオリエンテーションが行われました。中田所長の挨拶の後、オリエンテーションでは放送授業、面接授業、オンライン授業、施設の利用方法、単位認定試験の勉強法、客員教員ゼミや所長カフェ等の説明が行われ、新入生の皆さんに熱心に聞いておられました。



御礼のことば

福島学習センター所属 鳴原 光郎

本日は私たち卒業生のために学位授与式を挙行いただき、有り難うございます。

いろいろな思いが走馬灯のように思い出されてると思いますが、これからが本当の勝負所です。

希望・苦難・喜び・悲しみ・その先にある人生をどのように誰と生きるかが問われることになります。

もちろん在校生の皆様も同じく各自の人生を歩んでおられることだと思いますが、是非一期一会を大切にし、悔いのない人生を楽しんでください。

私は2011年後期入学生で「人間と文化」コースを受講し今回は「生活と福祉」コースでした。入学動機は学士への憧れでした。

さて、ここで私がこれまで大切にしてきた言葉をいくつか紹介します。

最初に皆さんもご存じのマザーテレサの言葉。「思考に気をつけなさい それはいつか言葉になるから 言葉に気をつけなさい それはいつか行動になるから 行動に気をつけなさい それはいつか習慣になるから 習慣に気をつけなさい それはいつか性格になるから 性格に気をつけなさい それはいつか運命になるから。」

日々の何気ない会話や行動を通じて観られていますを、肝に銘じてこなかった自分がいます。

次に、高浜虚子「存問」「そろいけり」の一文です。「ある晩、子規のもとに仲間が集まって話が弾んでいた。しかしそのうちその中の幼なじみの一人が座を立とうとした。すると子規は突然大声を上げ

て泣きながらこう言ったそうな。

『もう少し居ておくれよ、おまえが帰るとそこが空っぽになるじゃないか』この空白の悲しさ…。』

私はこのエピソードに痛く感動した。

つまり「そろっているから」私たちの命は幸福であり平和であり安らぐのであると述べています。

その次に、夏目漱石の『草枕』の一文です。

「人の世を作ったものは神でもなければ鬼でもない。やはり向こう三軒両隣にチラチラするただの人である。」

私は何か良いことを聞くとすぐに誰かに話したり、ほかの人には迷惑でしょうが気づかず話しに夢中になる悪い癖があり、思考はいつもマダラ模様、しっかりと縦糸に横糸を通して相手に伝える能力を身に付けたいと日々精進の毎日です。

学問を通じ知識が増えて、使うものの心が豊かになり幸せになるとは限りません。

そんな刹那を生きる私たちに真の学ぶことの楽しさを教えてくれた学び舎、現在も学ぶことの苦行に耐え学び続ける人たちへ楽しくすることは、相手があるので難しい、でも挑戦を諦めなければ楽しい人生になります。

最後に、ここで学んだことをこれから的人生に生かして行きたいと思います。

本当に有り難うございました。

令和7年9月27日

いわきサテライトスペース所属 箱崎 正廣

という言葉について改めて考え直すことが出来ました。

退院後、令和5年4月「自然と環境コース」に再入学し、今まで以上に楽しむ学びを心掛け、2年半で今回の卒業となりました。

通算7年半の放送大学では47科目の放送授業・7科目の面接授業を学びました。

この間、ゼミにも多数参加させていただき、特に山田紀浩教授には私にとって異分野の教えをいただき、またゼミ参加者とのディスカッション等は貴重な財産・想い出となりました。

また、いわきサテライトスペース事務局の皆様には当初より親切丁寧なアドバイスをいただき、改めて感謝申し上げます。

放送大学の学生生活は一区切りとしますが、今後も公開講演会・選科もしくは科目履修生等々、機会があれば参加し、「脳トレ」は継続したく考えています。

学位記授与式(卒業式)については、令和2年3月はコロナ禍により中止、令和4年3月については入院にて欠席、今回3度目の正直で初めて出席する事ができ、感慨深いものがあります。

最後になりますが、放送大学・福島学習センター・いわきサテライトスペースの益々の発展を祈念し、お礼の挨拶と致します。本日はありがとうございました。

令和7年9月28日

※あることを理解している人は知識があるけれど、そのことを好きな人にはかなわない。あることを好きな人は、それを楽しんでいる人に及ばないものであるという意味。

公開講演会のお知らせ



講師／高田 英和 氏
放送大学客員教授
福島大学人間発達文化学類教授

日時／2026(令和8年)2/1(日)

■開場12:30 ■開演13:00～14:30

会場／放送大学福島学習センター講義室

演題／児童文学と社会と文化

講演概要

英国には私たちの良く知っている児童文学の作品が数多くあります。代表的なものとして、例えば『不思議の国のアリス』、『クマのプーさん』、『ハリー・ポッター』が挙げられます。そこで、今回は、英国で生み出された児童文学の作品が、どのようにその当時の時代の風潮と関連しているのかについて、個々の作品を読んだだけでは分かり難い諸問題(植民地主義、ジェンダー、セクシュアリティなど)と共に、考えてみることにします。

オープンキャンパスも同時開催

要申込 12:30～13:00
放送大学内容説明・施設見学など



講師／會田 容弘 氏
放送大学客員教授
郡山女子大学短期大学部教授

日時／2026(令和8年)2/1(日)

■開場14:45 ■開演15:00～16:30

会場／放送大学福島学習センター講義室

演題／考古学と現代社会～郡山女子大学短期大学部で考古学を学ぶ理由～

講演概要

大学と社会の関係が問われるようになりました。考古学が社会の役に立っているようにみえません。しかし、大学で学ぶ考古学の知識と技術を活用する場は行政、博物館、企業などにもあるのです。埋蔵文化財の調査・記録には考古学が必須です。人間の生きた痕跡である遺跡はどこにでもあります。それを保護し、保存し、活用する考古学の社会的役割を紹介します。



講師／山田 紀浩 氏
放送大学客員教授
東日本国際大学経済経営学部教授

日時／2026(令和8年)2/7(土)

■開場12:30 ■開演13:00～14:30

会場／いわき市社会福祉センター

演題／安全・安心社会の形成～風評被害克服活動から見えたもの～

講演概要

2011年3月11日に発生した東日本大震災から15年目を迎えるとしています。この大震災からの復興に際し、福島県は人類歴史上経験のない原発事故からの復興という大問題を抱えてしまいました。この放射能災害からの復興は実害と風評の2つに分けられますが、実害の復興は具体的で明確であるため作業になり、風評は観念的でありその復興は活動がメインです。ここではこれまで実施してきた風評の克服活動事例から見えてきた点について検討します。

定員・お申込み・お問い合わせ

■各先着35名(要予約)

※各回とも定員になり次第終了します。お早めにお申込みください。

■事前電話予約

開催地別に電話でお申込みください。

- ・いわき いわきサテライトスペース
- ・郡山 福島学習センター



主催：放送大学福島学習センター 後援：福島県教育委員会・郡市教育委員会・いわき市教育委員会

学生サークル紹介

会津学知会



会津学知会 佐藤 和光

2025年6月、BS231チャンネルで放送大学キャンパスガイド「サークル紹介“会津学知会の研修会”」が放送されました。この番組は、放送大学におけるサークル活動の魅力と、学びの楽しさを紹介する内容で構成されています。

放送までの経緯ですが、昨年の12月中旬頃、放送大学制作部の長谷川昌代ディレクターから「会津学知会の活動をキャンパスガイドで紹介できないか」との企画提案のメールをいただき、学知会として協力の意向をお伝えしました。その後、数十回程のメールのやり取りを重ね、企画を具体化していきました。

当初は「慌てず、ふさわしいタイミングで撮影・放送する方が良い」との方針で、6月頃の撮影を予定と思っていました。しかし、2月下旬の番組会議にて急遽「6月放送に向けて、5月上旬までに撮影を完了させる必要がある」との決定が下されました。それで、4月23・24日に研修会を実施することとなり、撮影は2日間にわたり行われました。

・1日目(4/23)

【鶴ヶ城歴史散策】明治・戊辰戦争の舞台である鶴ヶ城をボランティアガイド歴のある中野まさこさんの説明を聞きながらの散策は、会津藩の精神や文化を肌で感じる時間となりました。城郭の構造や石垣の美しさが印象的で、教科書では得られない臨場感がありました。

【県立博物館「ミニ講演会】會田先生による「猪苗代湖畔に立ったホモ・サピエンス」講義では、人類学的視点から会津の文化を紐解き、地域と学問が融合したユニークな学びが展開されました。

【県立博物館「展示見学】縄文土器の見学では、造形美や精神性に触れ、古代の暮らしに思いを馳せる貴重な体験となりました。會田先生の解説により、展示が「生きた学び」となりました。

・2日目(4/24)

学習センターで、中田センター長のインタビューと「所長カフェ」参加学生のインタビューとなりました。この映像は、キャンパスガイド・「卒業研究の進め方/学生ボイス」として放送されました。

今回の研修会は、中田センター長・職員・会津学知会・ゼミの学生20名・一般市民10名が参加しました。少人数ならではの距離感で、意見交換や感想の共有が活発に行われ、学びの密度が高まりました。中田センター長のご尽力、會田先生の興味深い講演と解説は、地元・会津の文化や歴史の学び、地域愛と知的好奇心を育む貴重な機会となりました。

放送大学キャンパスガイド(サークル紹介) : <https://www.youtube.com/watch?v=l6l6QrDiiG0>

(卒業研究の進め方/学生ボイス) : https://www.youtube.com/watch?v=Mf4pATWNu_o

会津学知会ホームページ : <http://aizugakutikai.yaekumo.com/>

